

令和7年度 南アルプス市立櫛形北小学校 学校関係者評価書

令和8年1月16日（金）
学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

日 時 令和8年1月16日（金）
会 場 櫛形北小学校図書室
評価者 学校関係者評価委員

【学校評議員】	長澤 光（元中学校校長）	野田佳代子（主任児童委員）
	横小路 豊（元小学校校長）	
【各地区長】	東條 敏男（曲輪田区長）	河村 厚夫（上宮地区長）
	相原 真治（桃園区長）	
【PTA】	神永 弘子（PTA子育て代表）	内藤 寿彦（PTA子育て代表）
【学校】	河野 太郎（校長）	竹内 太郎（教頭）

- 内 容
- 1 学校側からの提案
 - ① 児童アンケートの内容と結果について
 - ② 教職員自己評価の内容と結果について
 - ③ 保護者アンケートの内容と結果について
 - ④ 令和8年度グランドデザインについて
 - ⑤ 令和8年度学校運営協議会委員について
 - 2 協議
 - ① 学校評価への全体評価、項目ごとの評価・達成状況について
 - ② 学校教育全般について
 - ③ 令和8年度グランドデザインと学校運営協議会委員について

《学校関係者評価書》

1 全体的な評価について

教職員の自己評価や児童・保護者へのアンケートの結果を見ると、ほとんどの項目で肯定的な評価が80%を超えており、学校における日々の熱心な教育活動の成果が表れている。また、この結果から櫛形北小学校の教育活動は、概ね適正に行われ、児童や保護者からも肯定的に受け入れられていると考えられる。しかしながら、昨年度と比較してA評価が大幅に減少している項目も散見され、それらを改善できるように原因を分析して次年度の指導につなげる必要がある。

また、少数ではあるものの否定的評価が増加している項目もあり、学校の課題として早期に取り組んでいてもらいたい。

2 評価委員会の中で委員の皆様から出されたおもな意見

○ 児童アンケートについて

【学校生活】に関わって

- ・ 全般的に児童が頑張っている様子がわかるが、相談できる先生や友達がいないと答える児童が増えている点が懸念される。自己評価では児童とコミュニケーションをとっていると答える先生が100%であるので、受け止めに差があることを前提に、おとなしく口数が少ない児童に配慮し、教師側からの意図的な言葉がけや、さらに相談しやすい雰囲気づくりを継続することを求める。

【確かな学力】に関わって

- ・ 授業での発言には個人差があるため、一律の結果を求めず、発言の少ない子が活躍できる場を意図的に設定するなど、子に応じた活躍の場を設定し、自信を持たせる工夫を求める。

- ・ 「授業が分かる」と回答している児童が90%を超えている。分かると思って授業を受けているということであり、クラスの雰囲気もよいのではないかな。
- ・ ICT危機は児童の興味関心を引く反面、思考力が低下してしまう恐れがある。使用する場面を工夫し、紙での学習とのバランスをとることや、ICTを活用してクリエイティブな活動を仕組むことが求められる。
- ・ 読書の時間を増やすことで思考力は育成される。本を好きな児童を育ててほしい。

【豊かな心】に関わって

- ・ 挨拶や無言清掃など、一度定着しても気を抜くと崩れやすい活動については、教師が共に行い、粘り強く指導を続ける必要がある。
- ・ 「家で学校の話をする」割合を維持・向上させるため、児童への働きかけだけでなく、保護者への情報共有も重要である。
- ・ 地域とのつながりが希薄になっている現在、見知らぬ方に挨拶などの声掛けをすることは児童の側からも大人の側からも抵抗が一定割合あると思うが、北小の児童は比較的挨拶を積極的に行えている。

【健やかな体】に関わって

- ・ 早寝早起きや朝食といった項目は家庭環境の影響が大きいので、学校だけで解決しようとせず、ピンポイントな家庭支援や連携が必要である。

【その他】に関わって

- ・ スマホ・SNS等の情報モラル教育は避けて通れない課題であり、学校と家庭が一体となって継続的に取り組むべき。避難訓練と同じくらいの頻度（2か月に1度）で教育活動に取り組むべきである。

○ 職員による学校評価について

【学校経営・学校運営への参画】に関わって

- ・ 報告、連絡、相談が活発で、悩みを共有しやすい職員室の状態で、心の健康を保つにも良い職場環境である。若い先生が多く、手本となる中堅の職員が少ないことが教師の成長を阻んでいないか懸念される。

【学習指導】に関わって

- ・ 読書指導への評価が低い点に対し、単なる指導ではなく本と出会う仕組みの構築や、教師自身が読書の楽しさを伝えるようにしてほしい。
- ・ 授業のめあて提示や評価の重要性を説くとともに、子どもの自信に繋げるためにも、教師が大きな声で明確に伝えるという基本動作を徹底するよう求める。

【生徒指導・生活指導】に関わって

- ・ いじめについて早期発見・対応の数値が高いことに安心する。
- ・ 児童の特性が多様化する中で、担任だけで抱え込まず、外部の専門知識や補助教員を総動員して対応することを推奨する。
- ・ 昔の先生は怖かった。今は児童を叱るとクレームをつける保護者がいたり、叱られる経験がない児童に注意すると叱られたととらえられたり、今の先生は大変だと思う。

【保護者・地域との連携】に関わって

- ・ 学校だよりの回覧などが地域に浸透しており、ホームページと併せて地道な発信を続けることが重要である。

【小中一貫教育】に関わって

- ・ 「深い学び」や対話を取り入れた授業など、高度な教育目標に対しても一人で抱え込まず、楽しみながら取り組む心の余裕が、子どもの成長の鍵である。

【働き方改革】に関わって

- ・ 単級（小規模校）の厳しさを理解した上で、やらなくてもよいことを見極め、業務の精選を

行い、仕事と生活の両立を図ってほしい。

- ・ 教師が自身の趣味や関心事を語る姿が子どもに好影響を与えるので、働きすぎず、豊かな人間性を維持することも大切である。

○ 保護者による学校評価について

【学校が楽しいか】に関わって

- ・ 保護者の肯定的な評価が非常に高いことを受け、「教職員は誇りを持つべきである」と称賛されています。学校が楽しいことは、あらゆる教育活動の基本である。

【子ども理解（学習・友達）】に関わって

- ・ 多くの項目でA評価が増加している点から、保護者が学校の取り組みを明確に支持している現状が高く評価できる。
- ・ 児童の交友関係など、保護者にとって回答がわかりにくい質問の改善や、保護者自身の相談相手の有無など、より実態に即した聞き方の工夫について改善すべきである。

【家庭・地域との連携】に関わって

- ・ 共働き世帯の増加や核家族化により、地域で子どもを見守る機会が激減していることが懸念される。「子どもはどこにいるのか」という問いかけと共に、家庭や地域にゆとりがなくなっている実態がある。

【生活習慣】に関わって

- ・ あいさつについては家庭でも率先して行うよう指導している。

【情報発信】に関わって

- ・ デジタル化の流れの中でも、写真や記事が充実した紙の「北小だより」が、子どもの生き生きとした様子を伝える重要な役割を果たしている。
- ・ 地域で子どもの姿が見えにくくなっているからこそ、学校の活動を地域へ発信し続け、地域全体で子どもを受け止めるきっかけにすべき

【情報端末の所持と使用】（項目⑫⑬）に関わって

- ・ 所持の是非については家庭の事情（連絡手段等）があるものの、使い方やモラルについては、学校と家庭が密に連携して指導し続ける必要がある。
- ・ 所持、不所持については学年別に統計を取ることも必要。何歳から持つものなのか目安になる。

○ その他、アンケート全般について

- ・ 良い評価については教職員の自信とし、課題についてはさらなる教育実践の改善につなげ、進化し続けることを期待する。
- ・ 資料にページを入れるようにしたほうが、話し合いがスムーズに行える。ぜひ改善をしてほしい。